

ハーフパンツタイプのユニホームで選手に声援を送る久保田葉月さん(手前)ら。16日、甲子園球場



チア、エール華やかに

ハーフパンツのユニホームで

八戸学院光星高が全国高校野球選手権大会の3回戦に勝利した16日、応援団が陣取った甲子園球場の三塁側アルプススタンドでは、同校チアリーディング部の

部員らが従来のユニホームではなく、ハーフパンツのユニホーム姿で選手に華やかなエールを送った。同部顧問の野坂華子さんによると、青森大会ではス

カートタイプのユニホームだったが、全国大会では一般の観客が増えることから、盗撮を防止する目的で、新たな衣装を12日の初戦から着用。スタンドでの統一感を持たせるため、上着も含めて野球部のユニホームに似せたデザインを採用し、甲子園大会に向けて新調した。チアリーディング部の部長で3年の久保田葉月さん(17)は「本音はスカートの方がかわいい…」と少し残念がりながらも、「盗撮を気にせず応援に集中できる。最初は乗り気ではなかったけど、着てみたら意外と涼しげだと感じた」と笑顔で話した。(福田駿)

留守部隊も熱い声援

八戸学院光星高が4年ぶりの8強入りを決めた16日、八戸市湊高台6丁目の同校では、初戦に引き続き



勝ち越した1回裏の攻撃の場面で、両手を上げて喜ぶ生徒たち。16日、八戸学院光星高

運動部員や教職員ら計約40人が集まり、大型スクリーンで試合を観戦。聖地では甲子園のアルプススタンドに合わせて応援。攻撃の場面では「ヤーレヤーレ」「ヨイサーヨイサー」と、八戸三社大祭のかけ声を取り入れたフレーズがこだました。

初回に1点を失った直後の攻撃で、一挙4点を奪い勝ち越すと、生徒らは両手に持ったスティックボールを高々と上げて喜んだ。3点差に迫られた終盤では、生徒らが祈るように「大丈夫」などと声をかけながら、ナインを後押し。相手の追い上げをかわして最後のアウトを取ると、教室は大歓声に包まれた。レスリング部1年の名久井悠さんは「ひやひやしたのが最後しつかり守り切った。かっこいい勇姿を見せてくれた」と笑顔を見せた。(磯野雄太郎)